

防災エンジニアコース

活動風景

実習風景

発電機を用いて非常時の電源確保
発電機を作動させ非常時に電気を起こします。



消防署の体験訓練に参加しました。
重い装備をして煙の建物の中から負傷者を助けます。

授業風景

新型蓄光材の製品開発をするために、グループディスカッションを行い、いろいろなアイデアを出すことで新たな製品の可能性を探します。



ボランティア活動

東日本大震災ボランティア活動風景
6月11日の宮城県仙台市でのボランティア活動
津波後の泥を排出する清掃を行いました。

7月新潟・福島豪雨ボランティア活動
8月25日福島県只見町でのボランティア活動
土石流で詰まってしまった排水路の泥だしを行いました。



地域の防災活動への参加

10月2日に柏崎市の高柳地区の防災訓練に参加しました。
AEDの使用訓練に参加しました。

柏崎工業高校 防災エンジニアコース

平成21年4月、電気科に新しいコースが誕生しました。

● コースが目指す生徒像

災害時に地域社会から必要とされる技術者

非常時の電源の確保に貢献

非常時の通信の確保に貢献

豊かなボランティア精神で社会に貢献

社会に貢献できる技術を学ぼう！

工業の科目では、電気工事施工及び通信機器の設置など、非常時の電源の確保や通信手段確保に関する基礎的知識や技術を防災の視点から学習します。また、習得した知識や技術は、災害時に活かせるように、実習や課題研究等をとおして即戦力となるように高めていきます。

総合的な学習の時間やHR、学校行事では、地震・水害等の災害や地域の学習、ボランティア活動、及び情報伝達能力を身に付ける取り組み等をとおして、社会貢献や復興支援に役立つリーダー的人材を育成します。

● 科目編成の基本(専門科目)

電気科共通の科目と防災の視点にたった電源や通信の確保に関する学校設定科目によって専門科目を編成します。

また、将来、公的資格を取得する際に必要な科目も学習します。

● 卒業学科

電気科

● 履修する主な専門科目

工業技術基礎、電気基礎、電力技術、電子技術、電気製図、実習、課題研究

*情報通信と防災、*防災技術基礎 等

(*は、学校設定科目)

● 卒業までにチャレンジする資格

第二種電気工事士、工事担任者、消防設備士、小型車両系建設機械

第二種電気工事士は、卒業により筆記試験が免除される。

工事担任者資格試験は、A I 第三種およびD D 第三種について、所定の科目を修めて卒業すると試験科目のうち「基礎」が免除される。

● 学校設定科目の内容

防災技術基礎

電気系の基礎知識や技術のうち、太陽電池や発電機等を利用した非常時の電源確保等、電力に関する内容について防災の視点から学習します。理論と実践に基づく防災マインドを育てます。

情報通信と防災

工業科目「電子技術(通信分野)」(電気)に、無線機器を利用した非常時の通信手段確保等、防災の視点で捉えた題材を加え、電気通信の概要および通信機器の取り扱い方法等を学習します。

防災エンジニアコースQ & A

- Q 1 学習ではどのようなところに重点を置きますか。
A 1 工業系なので、理論以上に技術を大事にします。特に、実習や課題研究では、災害時の即戦力となるように、一人一人の経験を最重視します。
- Q 2 同じような学科やコースは、他の学校にありますか。
A 2 工業高校に設置されるコースとしては、他に例がありません。
- Q 3 「電気エネルギーコース」との大きな違いは何ですか。
A 3 防災の視点に立ち、災害時に即戦力となるライフライン確保の技能習得に重点をおきます。
- Q 4 将来の職業は。
A 4 電気設備系、通信設備系、防火・防災設備系、電力系、通信系、公務員等です。
- Q 5 進学先にはどのようなところがありますか。
A 5 4年生大学の理系では工学系の学部、また、文系では社会科学系の防災関連学部等が考えられます。
- Q 6 大学や企業、研究機関等との連携はどうなっていますか。
A 6 県内大学、民間企業、団体等と連携を図り、各学年で年間2回程度の外部講師による専門的な講義を行う予定です。また、他のコース同様、地元企業でのインターンシップやデュアルシステムを利用した体験型学習も行います。